

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

1

(1) $f(x) = \sqrt{x} + \frac{2}{\sqrt{x}}$ ($x > 0$) より,

$$f'(x) = \frac{1}{2\sqrt{x}} - \frac{1}{x\sqrt{x}} = \frac{x-2}{2x\sqrt{x}}$$

よって、 $f(x)$ ($x > 0$) の増減は次のようになり、

x	$(0, 2)$	2	$(2, \infty)$
$f'(x)$	$-$	0	$+$
$f(x)$		$2\sqrt{2}$	\nearrow

表より、 $f(x)$ は極小値 $2\sqrt{2}$ をもち、極大値をもたない。... (答)

(2) C 上の点 $(s, f(s))$ ($s > 0$) における C の接線は、

$$y = \frac{s-2}{2s\sqrt{s}}(x-s) + \sqrt{s} + \frac{2}{\sqrt{s}}$$

これが $P(t, 0)$ を通るとき、

$$0 = \frac{s-2}{2s\sqrt{s}}(t-s) + \sqrt{s} + \frac{2}{\sqrt{s}}$$

$$0 = (s-2)(t-s) + 2s^2 + 4s$$

$$s^2 + (t+6)s - 2t = 0 \dots \textcircled{1}$$

S の方程式 $\textcircled{1}$ の正の解の個数と P を通る C の接線の本数は一致するので、求めるものは、

S の方程式 $\textcircled{1}$ が異なる2つの... $(*)$ 正の解をもつような t の値の範囲である。

$$g(s) = s^2 + (t+6)s - 2t$$

とおくと、

$$g(s) = \left(s + \frac{t+6}{2}\right)^2 - \frac{t^2 + 20t + 36}{4}$$

よ、 $(*)$ を満たす条件は、

$$\begin{cases} -\frac{t+6}{2} > 0, \\ g\left(-\frac{t+6}{2}\right) = -\frac{t^2 + 20t + 36}{4} < 0, \\ g(0) = -2t > 0, \end{cases}$$

すなわち、

$$\begin{cases} t < -6, \\ t < -18, -2 < t, \\ t < 0. \end{cases}$$

よって求める t の値の範囲は、 $t < -18$ (答)

(3) $\textcircled{1}$ の2解が α, β であるから、解と係数の関係より、

$$\begin{cases} \alpha + \beta = -t - 6, \dots \textcircled{2} \\ \alpha\beta = -2t. \dots \textcircled{3} \end{cases}$$

$\textcircled{2}$ より、 $t = -\alpha - \beta - 6$.

これを $\textcircled{3}$ に代入して

$$\alpha\beta = -2(-\alpha - \beta - 6).$$

$$(\alpha - 2)(\beta - 2) = 16.$$

$-2 < \alpha - 2 < \beta - 2$ であり、 α, β が整数であることから

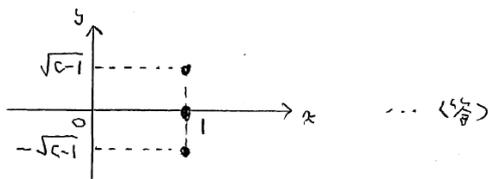
$$(\alpha - 2, \beta - 2) = (1, 16), (2, 8).$$

よって求めた組は

$$(\alpha, \beta) = (3, 18), (4, 10) \dots \text{(答)}$$

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

2 (1) $P(z) = z^3 - 3z^2 + (c+2)z - c$
 $= (z-1)(z^2 - 2z + c)$ ($c > 1$)
 より、 $P(z) = 0$ を満たす z は、
 $z = 1, 1 \pm \sqrt{c-1}i$ (答)



(2) $Q(z) = -\alpha^2 z^3 + 3\alpha^6 z^2 + (c+2)\alpha z - c$
 におい、 $z = u$ とおくと、
 $Q(z) = -\alpha^4 u^3 + 3\alpha^4 u^2 + (c+2)u - c$.
 $z = z'$,

$\alpha = \frac{1-i}{\sqrt{2}} = \cos(-\frac{\pi}{4}) + i \sin(-\frac{\pi}{4})$ より
 $\alpha^4 = \cos(-\pi) + i \sin(-\pi) = -1$
 であるから、

$Q(z) = u^3 - 3u^2 + (c+2)u - c = P(u)$.

より、 $Q(z) = 0$ を満たす u は、(1)より

$u = 1, 1 \pm \sqrt{c-1}i$

である、 z は

$z = \alpha^{-1}u = \alpha^{-1}, \alpha^{-1}(1 \pm \sqrt{c-1}i)$. つまり

$z = \frac{1+i}{\sqrt{2}}, \frac{1 \pm \sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} + \frac{1 \mp \sqrt{c-1}}{\sqrt{2}}i$.

(複号同順)

このうち、実部が最大のものは

$\frac{1+\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} + \frac{1-\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}}i$ (答)

(3) $Q(z) = 0$ の3解を

$z_1 = \frac{1+\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} + \frac{1-\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}}i$,

$z_2 = \frac{1-\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} + \frac{1+\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}}i$,

$z_3 = \frac{1+i}{\sqrt{2}}$ とおく.

z_1, z_2 の虚部は正なので、 $P(z) = 0$ と
 共通解をもつのは $z_1 = 1$ のときに限る.

このとき、 $\begin{cases} \frac{1+\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} = 1 \\ \frac{1-\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} = 0 \end{cases}$ であるが、

よって満たす定数 c は存在しない.

z_2, z_3 の実部は $\frac{1}{\sqrt{2}}$ 以下なので、

$P(z) = 0$ と共通解 $1 + \sqrt{c-1}i$ または

$1 - \sqrt{c-1}i$ をもつのは、

(i) $z_1 = 1 + \sqrt{c-1}i$, または

(ii) $z_1 = 1 - \sqrt{c-1}i$ のときに限る.

(i), (ii) とともに、実部 $1 > \frac{1}{\sqrt{2}}$

$\frac{1+\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} = 1$ より $\sqrt{c-1} = \sqrt{2}-1$

である、 $c = 4 - 2\sqrt{2}$.

このとき、 z_1 の虚部は

$\frac{1-\sqrt{c-1}}{\sqrt{2}} = \sqrt{2}-1$ であり

(ii) のときが適する.

以上より、 $c = 4 - 2\sqrt{2}$... (答)

である、共通解 β は

$\beta = 1 + (\sqrt{2}-1)i$ (答)

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

3

(1) $\vec{AB} = (1, 1, -1), \vec{AC} = (1, -1, -2)$
 であるから,
 $\vec{AB} \cdot \vec{AB} = 1^2 + 1^2 + (-1)^2 = 3. \dots$ (答)
 $\vec{AC} \cdot \vec{AC} = 1^2 + (-1)^2 + (-2)^2 = 6. \dots$ (答)
 $\vec{AB} \cdot \vec{AC} = 1 \times 1 + 1 \times (-1) + (-1) \times (-2) = 2. \dots$ (答)

(2) Q は平面 H 上にあるから,
 $\vec{OQ} = P\vec{AB} + Q\vec{AC} \dots$ ①
 と表せる。 $OQ \perp H$ より,
 $\begin{cases} OQ \perp AB, \text{ すなわち, } \vec{OQ} \cdot \vec{AB} = 0, \dots$ ②
 $OQ \perp AC \quad \vec{OQ} \cdot \vec{AC} = 0. \dots$ ③

①, ② より
 $(\vec{OA} + P\vec{AB} + Q\vec{AC}) \cdot \vec{AB} = 0,$
 $\vec{OA} \cdot \vec{AB} + P|\vec{AB}|^2 + Q\vec{AB} \cdot \vec{AC} = 0.$
 $3 \times 1 + 1 \times 1 + 3 \times (-1) + 3P + 2Q = 0,$
 $3P + 2Q = -1. \dots$ ④

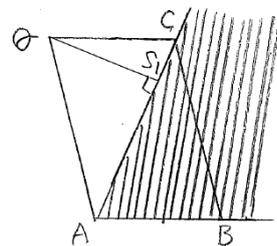
①, ③ より,
 $(\vec{OA} + P\vec{AB} + Q\vec{AC}) \cdot \vec{AC} = 0,$
 $\vec{OA} \cdot \vec{AC} + P\vec{AB} \cdot \vec{AC} + Q|\vec{AC}|^2 = 0.$
 $3 \times 1 + 1 \times (-1) + 3 \times (-2) + 2P + 6Q = 0.$
 $P + 3Q = 2. \dots$ ⑤

④, ⑤ より, $P = -1, Q = 1.$
 よって ① より, $\vec{OQ} = -\vec{AB} + \vec{AC}. \dots$ (答)

(3) 領域 K は平面 H 上に存在する。
 R を直線 QP 上の点とすると,
 $\vec{AR}_1 = \vec{AQ} + k\vec{QP}$
 $= (kS + k - 1)\vec{AB} + (kt - k + 1)\vec{AC}.$
 さらに R_1 が直線 AC 上にあるとき,
 $\vec{AR}_1 = l\vec{AC}.$
 $\vec{AB} \neq \vec{0}, \vec{AC} \neq \vec{0}, \vec{AB} \times \vec{AC}$ より,
 $\begin{cases} kS + k - 1 = 0, \\ kt - k + 1 = l. \end{cases}$
 これより $k = \frac{1}{1+S}, l = \frac{S+t}{1+S}.$

したがって, $t = \frac{S+t}{1+S}$ とおくと $t \geq 0$ であり, また $S \geq 0$ より $0 < k \leq 1$ であるから, R_1 は線分 QP 上にある。
 この R_1 を R とすれば, "線分 QP 上の点" $\vec{AR} = t\vec{AC}$ (t は非負の実数) を満たす点 R が存在するといえる。
 (証明終り)

(4) $OQ \perp H$ より, K 上の点 P に対して $OP = \sqrt{OQ^2 + QP^2}$ が成り立つ。
 OQ は一定であるから, OP が最小となるのは QP が最小のときである。(2) より $\vec{AQ} = \vec{BC}$ であるから, Q の位置は次図のようになり, K は次図の斜線部分(境界含む)である。



Q から直線 AC に下ろした垂線と直線 AC との交点を S_1 とする。
 $QS_1 \perp AC$ より $\vec{QS}_1 \cdot \vec{AC} = 0$ であるから, $\vec{AS}_1 = u\vec{AC}$ とおくと, (2) より $(u\vec{AC} + \vec{AB} - \vec{AC}) \cdot \vec{AC} = 0.$
 $\vec{AB} \cdot \vec{AC} + (u-1)|\vec{AC}|^2 = 0,$
 $2 + (u-1) \times 6 = 0.$ これより $u = \frac{2}{3}.$
 よって, $\vec{AS}_1 = \frac{2}{3}\vec{AC}$ であるから, S_1 は領域 K 上の点である。したがって, OP が最小となるのは, P が S_1 と一致するときで, このときの P が S である。
 $\vec{OS}_1 = \vec{OA} + \frac{2}{3}\vec{AC} = (\frac{1}{3}, \frac{1}{3}, \frac{5}{3})$ より
 $S(\frac{1}{3}, \frac{1}{3}, \frac{5}{3}). \dots$ (答)

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

4 (1) $f(1) = 1 - (1-p)^n \dots (\text{答})$
 $f(2) = f(1) - {}_n C_1 p (1-p)^{n-1}$
 $= 1 - (1-p)^n - np(1-p)^{n-1} \dots (\text{答})$

(2) $n \geq 2$ のとき,
 $k = 1, 2, \dots, n-1$ に対し,
 $f(k+1) = f(k) - {}_n C_k p^k (1-p)^{n-k} \dots \textcircled{1}$
 ここで, $k = 1, 2, \dots, n-1$ に対し

$$f(k) = \frac{n!}{(k-1)!(n-k)!} \int_0^p x^{k-1} (1-x)^{n-k} dx \dots (*)$$

が成り立つことを数学的帰納法により証明する。

(I) $k = 1$ のとき

$$f(1) = \frac{n!}{0!(n-1)!} \int_0^p x^0 (1-x)^{n-1} dx$$

$$= n \int_0^p (1-x)^{n-1} dx = n \left[-\frac{1}{n} (1-x)^n \right]_0^p$$

$$= 1 - (1-p)^n$$

となり, $k = 1$ のとき, (*) は成り立つ。

(II) $k = m (m = 1, 2, \dots, n-1)$ のとき

(*) が成り立つと仮定する。このとき

$$f(m) = \frac{n!}{(m-1)!(n-m)!} \int_0^p x^{m-1} (1-x)^{n-m} dx \dots (**)$$

となる。①と(**)より,

$$f(m+1) = f(m) - {}_n C_m p^m (1-p)^{n-m}$$

$$= \frac{n!}{(m-1)!(n-m)!} \int_0^p x^{m-1} (1-x)^{n-m} dx$$

$$- {}_n C_m p^m (1-p)^{n-m}$$

$$= \frac{n!}{(m-1)!(n-m)!} \left\{ \left[\frac{1}{m} x^m (1-x)^{n-m} \right]_0^p + \int_0^p \frac{1}{m} x^m \cdot (n-m) (1-x)^{n-m-1} dx \right\}$$

$$- {}_n C_m p^m (1-p)^{n-m}$$

$$= \frac{n!}{m!(n-m)!} p^m (1-p)^{n-m}$$

$$+ \frac{n!}{m!(n-m-1)!} \int_0^p x^m (1-x)^{n-m-1} dx$$

$$- \frac{n!}{m!(n-m)!} p^m (1-p)^{n-m}$$

$$= \frac{n!}{m!(n-m-1)!} \int_0^p x^m (1-x)^{n-m-1} dx$$

となり, $k = m+1$ のときも(*)は成り立つ。

したがって, (I), (II) より $k = 1, 2, \dots, n-1$ に対し(*)は成り立つ。

(*)は $n=1$ のときも成り立つ(証明終り)

(3) (2)で示した式において, k を $k+1$, n を $2k+1$, p を $\frac{1}{2}$ にすると,

$$f(k+1) = \frac{(2k+1)!}{k!k!} \int_0^{\frac{1}{2}} x^k (1-x)^k dx$$

ここで, $p = \frac{1}{2}$ のとき, 試行を $2k+1$ 回行乙赤玉を $k+1$ 回以上取り出す事象と, 白玉を $k+1$ 回以上取り出す事象と, 赤玉を取り出す回数が k 回以下である事象は同程度に起こるから,

$$f(k+1) = \frac{(2k+1)!}{k!k!} \int_0^{\frac{1}{2}} x^k (1-x)^k dx = \frac{1}{2}$$

よって,

$$\int_0^{\frac{1}{2}} x^k (1-x)^k dx = \frac{(k!)^2}{2 \cdot (2k+1)!} \dots (\text{答})$$